

# 知恵の環館

— 絵画コレクション — ⑤



三七、七、一四、  
お盆の夜の夢幻  
父は三十、母七五、息子五十余の初対面  
無情の風の是非もなや 南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏  
(繁)「お土産持って来たよ」  
(蘭童)「どこに今居るの」  
(繁)「中空に居るよ」  
(蘭童)「帰らないで居て下さい」  
(繁)「又来るよ、忙しいからすぐ帰る」と。  
云ふが早い、かき消す如く姿なくあとにハ灯燈のあわき光りのみ  
(たね)「又来ると云われても、このお客様だけハあまり歓迎出来  
ませんよ、悪いけれど」  
※「 」および( )内の名前は筆者注。

明治44年3月、青木繁はこの世を去る。一方福田たねは、青木と別れた3年後、帝国製麻社員野尻長十郎と結婚し7人の子宝に恵まれた。昭和29年、夫の死後、本格的に創作活動を再開する。たねは、風景や静物などの油絵や日常生活、市井の他愛もない出来事の多くを水彩画として残した。また時には、立体で子どもたちの姿を制作するなどもします。創作意欲の高まりをみせた。

そして、戦後、青木の名が著名になるに従って、たねにも注目が集まるようになる。特にその影響もあつたのか、亡き青木との想い出を描くことも少なくなかった。あるお盆の夜の夢。青木、たね、蘭童の3人は、夢の中で初めて対面する。父と子の掛け合い、それに対する、冗談とも本気とも受けとれるたねの言葉が印象的である。歓迎出来ませんよと言いつつも、たねが絵筆を走らせる視線

の奥底には、常に青木が存在していたのではないだろうか。また、晩年のたねは、蘭童、孫である石橋英市(エータロー)やその家族とも交流し、青木への追憶を深める機会が増え、なごは想像に難くない。今年、青木繁誕生130年、あらためて青木とたねの親交に想いを馳せてみるのもよいだろう。(三六) (4月号からは新シリーズを掲載します。お楽しみに)

## しまたかしの 芳賀の自然

47



### ヒメウラナミジャノメ

チョウ目ジャノメチョウ科

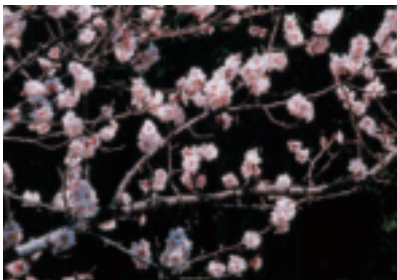
写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所=町内

分布=北海道~九州  
生息地=湿原や樹林周辺  
時期=4~9月  
発生=1~3回/年  
食性=イネ科シバ、ススキ、チガヤ  
大きさ=開帳40mm(羽を広げた最大値)  
特徴=ヒメジャノメとともに多くみられる。裏面は茶色の地色に波状模様があり、前羽に1つ後羽に4つのジャノメ模様の斑点を持つ。樹林内や草原で低く飛びまわり、樹液や腐った果実にも飛来することがある。

## 編集後記 ● 広報はが3月号

□3月3日はひなまつりですね。祖母井保育園でも7段のおひなさまが飾られていました。桃の節句とも言いますが、桃の花が咲くのは旧暦の話。今の暦では桃で花見をするのは難しいようです。

□ひなまつりを祝うお宅では、表紙になったとんがり教室のひな寿司やタウンレポートの豆腐白玉などを、お子さんと一緒に作ってみませんか？私もやってみたいです。(K)



▲かしの森公園の梅

◎編集 芳賀町広報広聴委員会

☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp

◎発行 芳賀町企画課

栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地

◎芳賀町ホームページアドレス

http://www.town.haga.tochigi.jp

◎芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
ESPA：環境保護印刷推進協議会  
http://www.espa.com